

## 2022年度事業報告

### 【1】認定NPO法人の更新申請

より信頼性のあるNPO法人を目指すため、認定NPO法人の申請を進め、2018年2月1日に認定がおりました。

認定NPO法人は5年ごとの更新申請をしなければなりません。2022年度はその更新申請の年度でした。認定を受けてからの初めての更新申請でした。結論からいいますと、申請は無事認められました。2028年1月31日までが新しい認定有効期間になります。

多くの皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

次回の更新申請は2027年度に入ってから行うこととなります。更新申請では過去5年間の必要書類を確認されます。今回の申請で指摘された事項を記録し、次回の更新の参考として残したいと思います。

認定の最低条件として、3,000円以上の寄付者・賛助会員が100名以上いることがあります。最初の認定申請では、100名ぎりぎりでした。今回はおかげさまで、各年度とも120名以上の方から寄付・賛助会費をいただくことができていました。そして寄付者・賛助会員の名簿についても、日付順・名前順に整備し、領収証を発行すること、また、入金記録も確認されます。これらについては初回認定時に一番苦労したこともあり、気を付けて整備していましたので問題ありませんでした。

ぎりぎりでクリアしたのは、特定の団体に属する役員が、1/3以下という条件でした。フルハウスの役員と兼ねている役員が複数いて、条件ぎりぎりの期間があり、2021年度には理事を増やして対応しました。この条件は5年間で一度でも満たない期間があると更新は認められないので、その点は役員改選時に注意しなければなりません。

申請書類を整えてから、仙台市の担当課の方が3日間コッペに書類の確認に来られました。その際に指摘された事項は以下の通りです。

#### ① 2020年度の活動計算書と総勘定元帳との数字があわない

...元帳が正しいので活動計算書を修正

受取利息 元帳 1,761円 活動計算書 1,726円

雑収入 元帳 283,198円 活動計算書 283,233円

総会の議決事項ではないが、修正の報告することが望ましいとのことでしたので、改めて報告します。

#### ② 認定基準チェック表（第2表）

- ・ 便益が及ぶ者が特定の範囲のものである活動に係る金額等の未記入  
福利厚生としてレクレーションに支出した金額等が相当する
- ・ 特定の者に対し、その者の意に反した作為又は不作為を求める活動に係る金額等の未記入

女川原発再稼働反対運動へのカンパ金等が相当

→これらの金額が全体の支出の1/2以下でなくてはならないという規定があります。金額としては全く問題ない金額でしたが、いずれも0円で報告しており、実際に支出した金額で訂正しました。

③ 認定基準チェック表（第3表）

各社員の表決権が平等であることの根拠の未記入。定款29条で「平等」が規定されていて、追加で記入。

④ 報酬等の状況の支給期間は、申請書が受け付けられた期間までで計算。3月末で計算していたので、再計算して提出。

⑤ 閲覧書類 履歴事項証明書が必要。最新のものをそろえていなかったなので、取得して添付。

以上の修正を行い、上述した通り、更新申請が 2023年1月17日付で認められました。

帳簿等の整備状況は、きちんとされているとの評価もいただきましたので、引き続き適正に行っていきたいと思います。

また、閲覧用として整備する書類の役員名簿等の住所は黒塗りをする必要があるとのことで、記録用とは別に整備するといいでしょうとの指摘もありました。2023年度分から対応したいと思います。

本筋からは外れるのですが、実は一番の問題は書類の置き場所でした。NPO法人の関係書類の他、福祉関係の書類、食品製造に関わる書類と、結構な分量になります。これの整理・保管場所が大変です。このあと述べますが、事務スペースとして新しく部屋を借りたことで随分助かりました。

## 【2】 コッペの2階の賃借

賃借している建物の1F部分を作業場・事務所・店舗・休憩室として使用していましたが、人が増えた分手狭になっていました。2Fの202号室が空いたのを機に、2022年4月20日付けで新たに賃借しました。活用方法は、事務所スペース、休憩スペース、資料・保存文書置き場、資材置き場です。その分の空いたスペースで、1Fの作業場を拡張しました。

広くなった分、作業場の動線はだいぶ改善されました。新しい機器も入れ、生産効率も多少は上がりました。お昼休みも2Fを利用しています。昼で横にもなれるので疲れた時にも安心です。

改修にあたり多くの皆さんから寄付金もいただきました。ありがとうございます。  
金額面は以下の通りです。

改修工事費用 3,510,881円（税込み）

ホイロ・冷凍冷蔵コールドテーブルの購入 1,236,400円（税込み）

事務機器 机・収納書棚等 441,056円（税込み） 改修費用計 5,188,337円

賃借料 \*2F 202号 家賃55,000円

\*1F 101号 88,000円 102号 198,000円 341,000円

\*駐車場8台分 56,000円

合計 397,000円

他に複合機・パソコン回線の増設等、リース料金も前年比倍になっています。

改修にあたっては、消防署の確認も大変でした。2Fに避難設備をつける必要があるとなり、避難はしごも用意することになりました。これについては、半年に1回、防災関係の業者にきてもらってチェックすることも必要になります。

作業場の改修工事は、7/30（土）～8月16日（火）にかけて行いました。その間は、2階の新しく借りた部屋で作業をした他、普段は行くことができない他の事業所に視察旅行と銘打ってみんなで伺いました。北は奏海（かなみ）の杜のさんから南はワタリスさん、相馬のもくもくさんまで、日ごろお世話になっている皆さんと交流することができて、いい経験になりました。視察旅行についてみんなで麦の穂に報告を書いてもらいました。

新たに賃借したことで当然ながら経費は増えています。その影響がどこまであるのか、来年度の課題となります。

### 【3】理事会

2022年度は計9回行いました。認定NPO法人更新申請や改修工事についてなど、今後の会の方向性を決定してきました。

コッペでは、みんなで運営を考えていこうとやってきました。法人格を得る前までは運営委員会を月1回開催していました。法人格を得た後は、運営員会を引き継ぐものとして「理事会」を行っていますが、みんなで運営を考えていこうと理事以外の方にも参加をお願いしてきました。しかしながら最近では理事以外の出席者が少ないのが現状です。

代表理事はもとより理事そのものの世代交代も求められています。引き続き都合がつく限り皆さんにも参加してもらおうことを呼びかけます。

### 【4】会員（2022年3/31現在）

正会員28名、賛助会員・寄付者138名（重複者除く）（昨年度より11名増）となっています。改修工事の寄付を募ったための増加です。

認定更新の件でも述べましたが、認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。

安定して認定の条件をクリアするためには引き続き寄付者・賛助会員の増加が必要です。今後も情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大を図ります。ご協力を引き続きお願いします。

### 【5】社会教育の推進

#### ① 会報「麦の穂」の発行 計4回 2022年6月・8月・12月・2023年3月

今年度は予定通り4回発行（350部前後）できました。発行部数は50部ほど増えています。関係する団体の方から原稿をいただいたり、コッペの障害メンバーからの原稿もあり、内容もまずまずだったと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。

#### ② ボランティアの受け入れ

区役所販売・DNP販売・ショップ等には、ボランティアの方にお世話になっています。ボランティア保険に加入し活動中のケガ等に備えました。

高校生の夏ボラ体験の受け入れは、改修工事の期間と重なったためできませんでした。

## 【6】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

### ① 開設状況

開設日数は、258日／年、利用者延べ数は、3,783人（昨年254日／年、利用者延べ数は、3,715人）となっています。コッペの定員としては、20名。在籍は19名、一日当たりの平均利用者数は、14.7人（昨年14.7人）となりました。延べ数、平均数ともほぼ昨年と同様になっています。

それを支えるスタッフは、常勤5名、パート4名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの方々等に、協力して頂きました。多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

### ② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,910万／年（仕入れ販売分340万含む）、月平均242万となっています。2021年度の売り上げからは約406万上がりました。売り上げとしてはコロナ前よりも上がっています。大学生協での売り上げの増加や新規取引先、福の市の開催、多団体とのコラボ商品の開発等が要因となっています。

コロナ以降、他の事業所との共同出店の機会も増えています。イベントでの販売は人員の確保が大きな問題になります。互いにプラスになるように今後も続けていきたいと思えます。

月2000円の会費で福祉事業所の製品をお届けしているB-NETサポーター会員も増えています。現在98名。あと2名で100人です。コロナではやったサブスクリプションの先駆けともいえます。是非お声がけをお願いします。事務局・多夢多夢舎中山工房の会員を含めると全体では165名です。

売り上げは良かったわけですが、やはり原材料費等の高騰で利益は圧迫されています。

パンは値上げ、クッキーはグラム数の変更で対応はしていますが、今後も状況が改善されるとは思えず、不安要因になっています。

### ③ 訓練等給付費収入

2021年度は3,260万ほどとなりました。ほぼ前年並みの数字となっています。

### ④ 工賃

障害メンバーの給料は、総支給額で8,762,950円、平均工賃は、38,774円となり、2021年度35,356円よりやや増加しました。先に述べたように売り上げは好調だったのですが、原材料価格等の高騰により利益は少なく、小幅な増加にとどまりました。

コッペの目的とする共に働くことの具体的な現われが工賃の金額です。その目標が達成できないのでは、コッペをやっていくこと自体の意味がありません。

必要経費も増えている中、再度工賃アップに向け、さらなる売り上げの増加が必要です。

## ⑤ 収支状況

改修工事に要した費用、それに伴うリース料等の諸費用の増加、原材料価格の高騰などの影響が大きく、収支としては、約54万の赤字となりました。

## ⑥ レクリエーション・研修

「COOPトリプルカード みやぎスマイル基金」の助成を得て、健康レクリエーションを全8回行いました。毎回10名以上の方が参加しました。運動不足になりがちなメンバーに体を動かす機会の提供をするとともに、余暇活動の一つとなりました。

長く続けていただいていたいちえさんの食事会ですが、いちえさんがやむなく閉店となったため継続できませんでした。これまで開催いただいたことに感謝申し上げます。

## 【7】 NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付費もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もとなるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

引き続き情報交換をしながら連携していきたいと思えます。

## 【8】 NPO法人共同連並びに東北ブロックについて

NPO法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。ZOOMでの会議の他に、今年度は東北ブロック交流会も行いました。共に生き、共に働く～多様な形態、多様な場所から～をテーマに、5人のシンポジストの方に登壇いただき、2022年10月に施行された労働者協同組合の実践についても報告してもらいました。各地の方々と対面で交流できたことはうれしいことでした。11/12には札幌で一日だけの開催でしたが、全国大会も行われました。今度も共同連の活動に参加したいと思えます。